

第2回富山市文化財保存活用地域計画策定協議会 会議録

開催年月日	令和6年3月15日(金)
開催場所	Toyama Sakura ビル 8階 教育委員会室
会議時間	開会 午後2時00分 閉会 午後4時00分
出席委員 (10名)	今川委員、上野委員、菊川委員、齊藤委員、島添委員、鈴木委員、関野委員、辻委員(代理出席：富山県教育委員会生涯学習・文化財室 越前副主幹)、中村委員、藪谷委員
欠席委員 (0名)	
事務局	教育委員会：民俗民芸村村長、参事(郷土博物館長)、生涯学習課長、埋蔵文化財センター所長、その他5名 ※令和5年度富山市文化財保存活用地域計画策定支援業務委託受託業者としてランドブレイン株式会社社員 2名
会次第	1 開会 2 議長挨拶 3 報告事項 (1) 第1回協議会会議録について 4 協議事項 (1) 指定文化財等の現状について (2) 富山市文化財保存活用地域計画の内容について (3) 令和6年度スケジュールについて 5 閉会
—会議録(概要)—	
<p>1. 議長挨拶</p> <p>議長 挨拶</p> <p>今年は元旦から能登半島地震で大変なスタートとなっているが、文化財も数多く倒壊があり、市内の文化財においても同様に、仏像や建造物の破損などもあるようである。それらを継承するための後継者の育成も難しくなっており、この地域計画の重要性を感じている。アンケート調査は震災後に実施しており、参考にして被害を少なくするための計画が必要である。忌憚のない意見をいただきたい。</p> <p>事務局 委員紹介</p> <p>2. 報告事項</p> <p>(1) 第1回協議会会議録について</p> <p>事務局 ～第1回協議会会議録について報告～</p> <p>3. 協議事項</p> <p>(1) 指定文化財等の現状について</p> <p>事務局 ～①指定文化財件数等一覧について、②文化財所有者アンケート結果について、③文化財保護事業について説明～</p> <p>議長 事務局より指定文化財等の現状について、ご説明いただいた。質問・ご意見はあるか。合併前の各市町村で指定の基準にバラツキがあり、件数は旧八尾町、旧細入村、旧山</p>	

田村が多い。今後見直していくべきである。市内全域での悉皆調査が必要と考える。

委員 指定・登録文化財の中で、盗難紛失したものはあるか。

事務局 今回、アンケートをお送りしたところ、宛所不明のものがいくつかできてきているため、追跡する必要はあると考えている。

議長 0件の類型もあるため、今後調査してよいものが出てくれば、指定もしくは指定予備群として、未指定のものでも地域の宝として、後世に伝えられたらと思う。
アンケート結果についてはご意見、ご質問あるか。

委員 文化財所有の意識について、誇らしさと負担感の関係がみられているが、誇らしさをどちらでもないとは回答されているのは、負担についてもどちらでもないが多く、無関心なのかが気になる。
また、誇らしいと思っている方が50%くらいいることは素晴らしいが、誇らしいと思っている方がどのような文化財を所有しているかわかれば、教えてほしい。

事務局 印象でいうと、どちらでもないとは回答された方は普段から日常管理をしていないものが多いと考えられる。
誇らしいとは回答されている方は、自分の元に文化財があり、管理していかななくてはいけないと考えているから、負担にも感じている。誇らしくないと感じていることは、まずは文化財の価値そのものをアピールする必要があると考える。
クロス集計したところ、建造物、考古資料、有形民俗文化財は誇らしいとの回答が100%であった。工芸品、書跡や天然記念物は誇らしいとの回答が少ない。

委員 誇りに思うことは、活用意思にも関わってくるため、計画を作成する上で、どこをターゲットにするべきか検討材料になる。自分で所有しているのか、地区で所有しているのか所有形態によっても、そのものへの想いは異なると思う。所有形態との関係を整理されると見えてくることもあると思う。

議長 指定時に関わっていない方が文化財を所有しており、文化財価値がわかっていない場合もある。大切であると啓蒙していく必要があると考える。
5ページに件数に対する回答率(%)があると傾向がわかりやすい。

委員 所有者の年代で、10年後の傾向がわかれば、報告してほしい。若い人が維持継承に参加することが減ってきている傾向があると思っている。

議長 70代以上が最も多いのは、考えなくてはいけない。継承する上では、次の世代を担う方々にうまくバトンタッチできるようにしなければよくない。

事務局 現在の所有者の回答のため、詳しくはわからないが、恐らく10年後もそのままプラス10歳になるのではないかと考えるため、若い世代の継承を課題として、計画の中で方策を導いていく資料となる。

- 委員 文化財を担う人の構成世代がわかれば、よかった。
- 事務局 アンケートでは、管理をしている人数を質問している。深掘りしたい事項があれば、次年度以降ヒアリングの検討もしたい。
- 委員 課題について、後継者がいないという回答が 21 件あるが、60 代以上の所有者が 60 名であるということは、3 分の 2 は後継者がいるということになることは驚いた。どういう文化財所有者で後継者がいないのか、分析されると課題が明確化するのではないか。
- 事務局 8 ページに文化財種類別にクロス集計をしている。後継者がいないのが多いのは、無形民俗文化財であった。
- 委員 母数がわかるように、グラフの横に回答数を書いておくとわかりやすい。
- 委員 教育委員会が管轄であることもあり、小学生や中学生に文化財の価値を伝えて、最終的に後継者につながったらよい。文化財の保存活用は将来的に管理してもらう人も大事である。また、災害は水害や台風もあるため、今後保存活用していく上で、天災にしっかり対応していかななくてはいけないと思う。
- 委員 活用していきたいと回答した方は、その理由として「文化財の価値を地域住民に知ってほしいから」、「富山市の歴史や文化を市内外の人たちに知ってほしいから」が多い。そのためには、展示施設が必要であると感じた。また、活用したい方が多くいるため、富山は 10 万石の城下町でもあり、観光も含め、活かしてほしい。
- 議長 指定された時期が古いものだと昭和 30 年代であり、意識が薄れていることも事実である。市の広報紙などで文化財紹介の掲載など活用していけるとよい。
また、地元素晴らしいものがあるということ、小さい頃から教えられるとよい。小さい頃から関わっていると思入れも違ってくる。祭りの際は必ず帰ってくるなど、教えることはできる。無形民俗文化財だけでなく、有形の文化財も地域の誇りとなれば、大切さを伝えていきたい。
- 事務局 活用の考えが強かった中、今回地震が起き、防災面は、考え直さなくてはならないと思っている。建造物の被害について指定文化財は確認できるが、未指定の建造物が今どうなっているかはなかなか把握できない。国の文化財防災センターが動いているが、富山市にどのような文化財建造物があるのかと聞かれた際に、一つ一つの調査報告書を出さないとわからない状況であった。そのため、後で示す文化財リストの作成は、富山市の歴史を示す活用の上でも大事だが、防災・保存の上でもリスト作成は大事だと考えている。
- 議長 震災後のアンケートだったため、防犯防災は不安という回答も多かった。市内全域の文化財の調査も進めていかななくてはいけない中で、富山市ならではの特徴が見えてくる。悉皆調査ができれば、市内全域均等に評価ができる。

文化財保護事業については、ご意見ご質問あるか。

事務局 地域計画の措置については、生涯学習課と埋蔵文化財センターで実施している以外の文化財に関係する措置も取り上げる。計画書序章では、本計画に関連する計画を掲載している。来年度以降、この関連計画を参考にしながら他部局に対して、文化財に関わる事業がどのようなことが行われていくかヒアリングを行う予定である。

議長 町並みや近代遺産など都市計画が絡んでくる。風景では農林関係も関わってくる。

(2)富山市文化財保存活用地域計画の内容について

議長 次に富山市文化財保存活用地域計画の内容について説明をお願いします。

事務局 ～①骨子案について、②文化財リスト等について説明～

議長 質問・意見はあるか。

指定もされておらず、文化財の価値がわからないと所有者も壊してしまう恐れがある。富山市は火災などで文化財がなくなったりもしている。逆に周辺に移築されて火災を逃れて残っているケースも富山市の特徴でもある。指定未指定関わらず、歴史は留めておく必要があると考える。

委員 骨子案の第5章に、「知る」「守り・つなぐ」「いかす・広める」とあるが、「いかす・広める」が（普及活用）ではなく（活用・普及）ではないか。

事務局 他の自治体では、「守る」と「つなげる」を分けているところや、「広める」を「知る」と合体させているところもあり、自治体によって異なる。考えなくてはいけない事項であるため、ご意見を頂戴できればと思う。

委員 コンセプトを入れられればよいと思うが、将来像は5章の1にあたるか。具体的にどのような将来像になるか。

事務局 現在、考えているところである。通常は富山市としてどのようなまちを目指すのかを関連させて、文化財保存活用をどのようにしていくかを考えていく。序章で関連計画をあげているように、総合計画や教育振興基本計画などを参考にして考えていきたい。文化財単体では将来像を考えるのは難しい。

目的は保存継承してまちづくりに活かしていくことであり、富山市として、まちづくりの方向性に関連させながら、将来像を考えていきたい。よいアイデアがあれば、アドバイスいただきたい。

委員 関連させるのはよいことである。その中で文化財保存活用地域計画がどのようなオリジナリティをもっていくかになる。まもる・いかすはどこ地域でも書かれていることである。富山市のオリジナリティが見えてきたらよい。地域計画もタイトルが固いので、副タイトルなど何かよい名称があればよい。

また、計画書であるため、目標値や評価の指標は必要ないのか。

事務局 第6章～9章の方針措置の部分で、期間と主体を書くことになる。個別の事業として目標を書くことにはなっている。

委員 どのような体制で、どういう指標なのかを明確化できればよい。

議長 県内の南砺市や砺波市では、文化庁の指導でがらっと変わったりもしている。言葉については、地域のらしさ、キャッチコピー的なものがある地域もある。

委員 骨子案について、より具体的の中身は、いつぐらいを目途にできるか。

事務局 後で触れる資料6で、文化財の特徴について触れている。来年度中には、歴史文化の特性、関連文化財群、課題方針措置などを表のような形で示したいと考えている。

委員 関連文化財群などストーリーを考える際に、まず第5章の方針・方向性が決まっていなとおもしろくない。5～8章をもう少し話をつめていき、基づいて作っていかないと、ミスマッチが出てくる。今後ワークショップなども予定しているため、その前までに固めておいた方がよいと思う。

委員 令和2年度に公共施設等総合管理計画を進めるための婦中町の地域実行計画について作成したことがある。この実行計画と文化財保存活用地域計画の関係についてお聞きしたい。

事務局 公共施設等総合管理計画に基づく地域実行計画は富山市の公共施設について具体的なプランを立てていくものである。把握する必要があると考えている。序章で示している主な関連計画には入っていないが、齟齬があってはおかしいため、参照しながら計画を作成する。公共施設等総合管理計画では、文化財に関して、文化財施設や博物館施設の今後の方向性として、文化や歴史の振興・保存の観点を踏まえながら、今後の施設の在り方を考えていくということが示されている。文化や歴史の振興・保存の観点から検討する上での、一つの素材・答えとして、文化財保存活用地域計画が参考にされていくと考えているため、矛盾はないように考える。

富山市のまちづくりとして考えていく際に、他の計画の将来像と合わせていくことが必要である。序章には地域計画の位置づけを示しているとおおり、一般的な記載事項ではあるが、重要な部分である。今までは文化財の計画は単独であった。今回はどう連携させていくかで重要である。また、将来像は早めに議論した上で、どのような調査やワークショップをしていくのか考えていくことが大事だと考えている。

前回、事例に挙げた富士市は、「富士山の麓で」という言葉で組み立てている。佐倉市では、「文化財でまちを元気に」という将来像を一番先に決めて、作成していった。

議長 では、文化財リストについて、ご意見、ご質問あるか。

富山市らしさとして、石造物が多い。そのため、地藏堂に地域ごとにも特色があると考えている。伝統的建造物群では、岩瀬、四方、上滝、八尾、水橋など市場町、旧街道宿場町の町並みが挙げられる。散村と集村も富山の特色である。

委員 本計画の対象となる文化財についての対象範囲の名称について早めに決めた方がよいのではないか。案があるか。

また、未指定の文化財の中に、生活文化や史話伝承郷土食などもあがっている。生活文化はどのようなもので、民俗文化財の違いは何なのか。郷土食は鱒ずしなど出来上がったものをイメージするのか、制作技術を指すのか、道具を指すのかなどイメージを持てるとよい。遺跡と埋蔵文化財を別立てにする場合、区分の整理を決めた方がよい。方言や富山独特の生活習慣・文化から生まれた地名・地域の名称なども文化財の範疇に含めるのか、考えられたらよい。

事務局 「文化財」というと、すべて指定文化財、文化財類型に当てはまるものをイメージしがちで、他の自治体では、歴史資源や歴史文化遺産などといった用語を用いている。しかしいろいろな用語がありすぎるため、「文化財」で統一したらよいと考えているが、委員のご意見を聞きたい。

食文化について、何をもちて文化財にするかは、文化財リストを整理する中で、特徴を見ながら確認したい。地名や方言なども取り上げているところもあるが、文化財の件数としては上がっていないことが多い。方向性・措置を考えていく際に、地名や方言すべて取り上げていくことがよいのか検討したいが、個々に取り上げることは考えていない。

議長 屋号もあるが、件数には挙げられないと考える。地域ならではの食文化もあると思うため、今回の調査で出てくればよい。次に、富山市の文化財・歴史文化の特徴について説明をお願いします。

事務局 ～③富山市の文化財・歴史文化の特徴について説明～

議長 富山市は旧街道が残っている。常願寺川や神通川など川に関わる歴史もある。富山市ならではの、今はないがかつて風光明媚な場所に関わるものが残っていたりする。旧街道、加賀藩富山藩の接点、川、戦場地、北前船の関わりがある。

委員 10万石の城下町、神通川が見えてこないため、家老の屋敷や薬業について富山らしさとしてあった方がよいと考える。

(3)令和6年度スケジュールについて

事務局 ～令和6年度スケジュールについて説明～

議長 浮田家の石垣など、神通川や常願寺川の玉石を使った独特の石垣の文化も富山の特徴である。

以上